

# 戦争中、人間の命が一銭五厘だった

## 長野・日本母親大会に参加して

7月22～23日に開催された日本母親大会の全体会に婦人部員19名で参加してきました。長野県は連日の大雨で大変な被害を出した地域があり、実の所、天気や道路事情がとても心配でしたが、なんと2日間とも大変良い天気にも恵まれホッとしました。ここでは23日の全体会で私達が聞いた、作家沢地久枝さんの記念講演での内容を紹介したいと思います。



1995年6月第1回目の母親大会に出席し忘れることが出来ないのはマイクを目指し粗末な服を着た母親達がずらりと列を作っていた事です。おそらく人前で発言するのも、生まれて初めてだったろうと思います。

その母親達はいかに戦時下においてつらい苦しい日々の体験からは何も生み出さない。我が子にも孫にもこんな体験はさせたくない、二度と戦争は起こしてはならないという、血を吐くような叫びでした。大勢の男性達ももらい泣きをしており、実に強烈な涙と訴えの大会でした。

今、日本は多くの人の犠牲の元に手に入れた平和憲法、特に憲法第九条を骨抜きにしようとしています。

戦争中の軍隊ではリンチがつきもの。軍隊で上官に歯が折れてしまうほどの暴力を受け、その時上官は『お前達のような兵隊は一銭五厘でいくらでも代わりは来るんだ』と言う。当時赤紙代が一銭五厘。これほど人命が軽く扱われた時代がついこの間この国にはあったという歴史を若い人達に伝えなければなりません。

二度と命が軽く扱われる時代にはしてはならない。  
世界中の人達と手をつなぎ、この思いを引き継ぐ人達を育てよう。

と力強い講演を聞くことが出来ました。

行田民商ニュース

2006.8.7  
NO.324

### 班長・集金担当の方へ

いつも配達集金ご苦労様です。

8月はお盆が入り集金しにくいと思われご苦労かけますが会の運営上19日までの納入に是非ともご協力をお願いいたします

### 事務局夏休みのお知らせ

8月12日(土)～16日(水)まで休みとなります。

### 帰りのバスの中での感想

- ・聞いてみたい話だった。一銭五厘の話はつらかった。(木村さん)
- ・全国からこんなに多くの人が集まってスゴイ(大嶋さん)  
～参加者一万5000人
- ・戦中生まれです。本当に力を合わせていい世の中を作っていきたい(田島さん)
- ・兄が戦争に行きマラリアにかかって帰って来たが、戦争の話は一切しなかった。つらかったのだろう。九条の大切さを改めて思った(長谷川さん)
- ・第一回目の母親大会でのみすばらしい服で訴えた女性達の話に胸が詰まった(渡辺さん)

参加者全員が命の尊さを改めて思い、平和憲法の大切さを強く感じた母親大会でした。

P S . 一泊した浅間温泉旅館では、皆さんエネルギーにハジケていたことを報告します。